

おいでん・さんそんSHOW

4月号
2018.4.01発行



特集 栃本町 桜の森づくり



地域と家族の未来が

重なる、桜の植樹

参加者41名の中には、地元冷田小学校の生徒の姿もあった

そこで、再び乱雑な姿に戻さないよう「栃本町桜の森づくり」と称して山に桜を植え、将来に渡って美しい景観を維持・継承していこうと取り組む事になりました。今回の桜の植樹は、宝くじの社会貢献広報事業として実施されているため、参加した子



栃本川の南側斜面が、桜の森づくりの場所となった

我が家の雑然とした食卓でフキノトウのほろ苦さを味わうとき、無事に1年が巡ったことを、幸福であることを感じる。ずいぶん安上がりだが、そう感じる

のだから仕方がない。3月20日は国連が定めた国際幸福デーだった。この日に合わせて2012年から毎年「世界幸福度ランキング」が発表され

ている。2018年は、世界156ヶ国中フィンランドがトップ、ノルウェー、デンマークと例年通り北欧が上位を占める。残念ながら日本は、昨年より3位後退の54位で過去最低、先進7カ国G7の最下位であったことも例年通りである。なぜこの豊かな国日本が低位に甘んじるのか。

ランキングは、幸福の主な指標として6項目を定め、それぞれの寄与を集計して幸福度として表している。①人口あたりGDP、②社会的支援(困ったときに頼れる人がいるか)、③健康寿命、④人生の選択の自由度、⑤寛容さ(寄付をしたか)、⑥腐敗の認識(政府や仕事上の腐敗である。日本は、GDP、健康寿命では圧倒的優位ながら社会的支援、寛容さが著しく低く順位を押し下げているとされる。3位の後は、腐敗の認識によるものと容易に想像できる。

北欧の価値観の押し付けであり、取るに足りない評価とする向きもあるが果たしてそうか。人が生きる究極の目的は幸福である。経済的に豊かであっても、支えあいや人生の選択に不安のある社会では幸福になれないのである。いなかとまちの強みを駆使すれば、フキノトウひとつで幸福を感じられる社会はできるはずだ。

センター長のミライのフツに 向かって！



センター長
鈴木辰吉

2017
第11回
フキノトウ

13戸の集落に41名の参加者

3月18日(日)、足助地区栃本町で、地元有志の主催による「桜の森づくり」が開催されました。おいでん・さんそんセンターは、募集や申込み先として、協力させて頂きました。

山里が好きで、地元住民と一緒に桜の森づくり作業に継続して参加できるご家族10組の応募要件に対して、予想を超える14組41名の申込みがあり、申し込まれた方全員にご参加頂く事になりました。

栃本町桜の森づくり

栃本町は、山々に囲まれ虫が飛び交う自然豊かな戸数13戸の小さな集落です。

集落の中心を流れる栃本川の南側斜面は、人口減少や高齢化などにより手が入らず、これまで竹や雑木が繁茂する乱雑な土地でしたが、平成28年度「あいち森と緑づくり事業」の整備によって見違えるほど綺麗になりました。

でも達で記念の石碑の除幕式を行いました。住民の天野正直さんからスケジュール説明の後、栃本町自治会長の倉田富夫さん(※)から趣旨説明がありました。

地域として参加者の思い

まずは、植栽する桜につけるマイ銘板の作成です。皆さん趣向を凝らして、筆を走らせた板に穴を開けてから、現場に移動しました。植栽現場では、本藤孝男さんが、植栽に必要な穴の深さや植え方、添え木の方向などを詳しく教えていただきました。本藤さんは、これまでも集会所近くの竹やぶなどを整備して、アセビやヤマブキ、ユキヤナギを植栽されてきました。

イベント情報

第八期豊森なりわい塾 塾生募集

農山村をフィールドに、実際「あるく・みる・きく」を通して学び、いっしょに、これからの生き方、働き方、社会のカタチを考えませんか？

●講座概要
期間:2018年5月~2019年3月(原則第3土日の2日間) 場所:愛知県豊田市
定員:20名程度 受講料:2万円(全回分)※交通費等は別途自己負担
主催:豊森実行委員会(豊田市、トヨタ自動車(株)、NPO法人地域の未来・支援センター)

- 基本スケジュール
 - 第1回 5/19、20 入塾式/地域をあるく・みる・きく
 - 第2回 6/16、17 地域を知り、地域に学ぶ「森林」
 - 第3回 7/21、22 地域を知り、地域に学ぶ「食と農」
 - 第4回 8/18、19 お年寄りの話に耳を傾ける「聞き書き実習」
 - 第5回 9/22、23 これからの生き方を考える【合宿】
 - 第6回 10/20、21 地域コミュニティ/くらし・つとめ・かせぎ
 - 第7回 11/17、18 教育・医療・福祉を考える
 - 第8回 12/15、16 地域経済とエネルギー/衣を考える
 - 第9回 1/19、20 これからの幸福論/修了レポート作成
 - 第10回 2/16、17 卒塾レポート発表会
- 修了式 オプション講座/修了式

●応募条件
・18歳以上の方・1年間のカリキュラムに積極的に参加できる方・当プロジェクトの主旨に賛同し、積極的・自発的に活動を広げられる方

●応募方法
web応募フォーム <http://www.toyomori.org/>
①~⑧の項目をweb応募フォーム、または郵便でお送りください。

①氏名(ふりがな)②性別③所属および略歴④生年⑤連絡先(郵便番号、住所、電話番号、メールアドレス)⑥応募動機(A4用紙1枚以内、顔写真付き)⑦この応募を知ったきっかけ⑧面接希望日(下記の日程のうち、面接可能な日時をできるだけ多くお挙げください)名古屋会場4月25、26、29日 豊田市会場4月27、28日 ※面接時間はお一人20分程度を、予定しています。※面接の日程詳細は、別途メールまたは電話でご相談させていただきます。

●選考方法
1次審査:書類選考(申込締切2018年4月20日(金))
2次審査:面接(選考の結果はメールまたは郵送にてお知らせします。2次選考の日時は、1次選考合格者に個別連絡します。※受講生は、原則すべての講座に出席できる人としますが、様々な事情は考慮します。※基本的には個人の応募ですが、ご家族のオプザーバー参加も可能です。)

●問合せ:豊森なりわい塾事務局
〒461-0002 名古屋市東区代官町39番地18号 日本陶磁器センタービル5-D(特定非営利活動法人中部リサイクル運動市民の会内) TEL:052-936-0511 FAX:052-982-9089
MAIL: info@toyomori.org URL: <http://toyomori.org/>
その他の情報は、センターHPをチェック!

(※)倉田さんは、おいでん・さんそんセンター発行の冊子「脈々と」に登場していただいています。

REPORT



早稲田大学研修受入れ



留学生を含む14名が、豊田市の取組を学ぶ

早稲田大学の学生寮に関する企画運営などを行うレジデンスセンターが、学生に都市と山村を併せ持つ豊田市の取組を学んでもらうために研修を実施し、3月13日(火)には、エコフルタウン、トヨタ会館を訪問、14日(水)に山村地域を訪れました。

早稲田大学国際学生寮に入居している学生14人(うち留学生5人)は、まずおいでん・さんそんセンターで、センター長から山村地域の概要、課題などの説明を受けまし

た。その後、重要伝統的建造物群保存地区「足助の町並み」散策をして、午後は旭地区の旧築羽小学校を活用した人材創造拠点「つくラッセル」を見学。つくラッセルでは、学生の皆さんに教室のリノベーションを体験してもらいました。金槌を使い、板を壁に貼っていく作業に、夢中になっている様子でした。

都市と山村を体験してもらうことで、「車のまち」と、それ以外の側面を両方感じていただけたようです。(木浦幸加)



センター事務所前で、学生の皆さんと記念撮影



つくラッセルの教室でリノベーションを体験する学生

REPORT



WE LOVEとよたフェスタ開催



山村地域からも、多数の団体が出展

2月25日(日)、スカイホール豊田で「WE LOVEとよたフェスタ」が開催されました。WE LOVEとよたフェスタ実行委員会が主催したこのイベント、準備期間はわずか2ヶ月半でしたが、子育て・福祉・地産地消・ものづくり・山と川などの分野から132の団体が参加、約6千人が集まりました。おいでん・さんそんセンターも、企業ブースに出展しました。

「WE LOVEとよた」の取組をしている個人、団体に贈られる「WE LOVEとよたアワード」の

表彰式では、おいでん・さんそんセンターとつながる活動団体も登壇しました。各団体には、太田稔彦豊田市長から表彰状と金色の



いとう ゆうじ

伊藤友治さんが、おいでん・さんそんセンターが発行した冊子「脈々と」、「稲武妖怪すごろく」を活用して、稲武地区の魅力をPRしていました。伊藤さんは、稲武支所に勤務する中山間地在住職員(※)で、前述の冊子「脈々と」の中にも登場しています。

午後からは、社会人のための地域参加促進事業「企業×地域＝わくわく」が同日開催されました。支え合う地域づくりの実現に向けて、社会人が地域課題へ目を向け、地域へ



メインホールの様子

の参加を促進することをねらいとしたシンポジウムで、経団連から1% (ワンパーセント) ながさわ えみこ クラブ事務局次長の長沢恵美子氏、市内で物流サービスを行う(株)キョウエイファイン代 さかもとさだひと 表取締役の坂本貞仁氏、当センター長の鈴木辰吉の3名がパネリストとして登壇しました。

三者それぞれの立場から、企業と地域が関わって、わくわくを生み出す方法について発表がありました。共通していたのは「人口が減っていく中で持続可能な暮らしを守っていくために、あるものをうまく掛け合わせ、協働できる相手を足す」ということだと感じました。(木浦幸加)



(左)長沢恵美子氏(中)鈴木辰吉(右)坂本貞仁氏



41名の参加者で、記念写真を撮影



マイ銘板を、植樹した桜に取り付ける参加者

現場は川沿いの急峻な斜面でしたが、小さなお子さん連れのご家族もあらかじめ印をつけてある植栽ポイントの中からお気に入りの場所を見つけて桜の苗木を植え付けていました。川向こうから見ても楽しめる場所、植えた桜の木の近くでゴザを敷けそうな広い場所陽当たりが良く花が早く咲きそうな場所に植える場所を選択したようです。



昼食には、地元女性が用意した豚汁や漬物を味わった



植樹の様子

「二十歳になったらお花見で一緒に飲みたい」など未来につながる夢を共有できました。

また、日進市や名古屋市中、岡崎市といった市外からの参加もありましたが、参加者同士が偶然にも近所だったり、ご縁が広がる出会いがありました。

今後、下草刈りなどの作業や冷田フェスタなどのイベントにも参加して頂く予定です。この取組による地域と参加者の結びつきが、やがて親戚のように深まり、今後の栃本町を支える大きな力になるものと確信しました。(西田又紀)

REPORT



未来につなぐ、あたりまえの暮らし



豊田市民の誓い制定40周年記念シンポジウム開催

3月4日(日)、産業文化センターを会場に「豊田市民の誓い制定40周年記念シンポジウム」が開催されました。市民の誓いの実践紹介である「感動の玉手箱」の作品朗読では、豊田市に住む方々の日常を切りとった



お話がうかがえました。(作品は、感動の玉手箱 2017作品集に掲載)

総合コーディネーターの澁澤寿一さん(豊森なりわい塾 塾長)による基調講話の後には、住民自治、子ども食堂、外国人市民、高校生、交流館をキーワードに5つの分科会が行われました。メイン分科会のひとつ「未来につなぐ、あたりまえの暮らし」では、澁澤さんがコーディネーターとなり、豊田市の山村地域で行われている3名の方の活動紹介を伺い、10年後の暮らしについて考えました。

スピーカーは、西広瀬小学校水質汚濁調査の地域協力者である清水有樹さん、元敷

島自治区長で「しきしま♡ときめきプラン」すずきまさはるの策定委員を務めた鈴木正晴さん、当センター長の鈴木辰吉が務めました。今ある風景を10年後も保ち続けるには、世代を超えて人がつながること、持ちつ持たれつで暮らすこと、この2つが当たり前の社会になる必要があるとお話がありました。参加者の方にとっては、10年後の当たり前の暮らしについて、我が地域では、と改めて考えるきっかけとなったのではないのでしょうか。(田中敦子)



(※)豊田市中心間地域に暮らしながら、地域の課題解決と活性化に取り組むために採用された市の職員